



～読書って楽しいね！～

先生方から おすすめの本の紹介

7人の先生方からうかがいました！

図書館でも貸し出しできる本です。



司馬遼太郎

竜馬がゆく

◆ 立志篇

文藝春秋

宮下 信二先生

『竜馬がゆく』

司馬 遼太郎（著）

文藝春秋

土佐藩を脱藩した竜馬は、尊皇攘夷の気持ち同士と語り合う。開国を叫ぶ幕府の勝海舟を切りに行くが、攘夷の愚かさを説教され、勝に弟子入りする。竜馬は幕府海軍の教習所に入り、海の向こうの外国に思いを馳せ、新しい日本を創ろうと奔走する。

全8巻と長い話だが、読書が好きではなかった高校時代にのめり込んで読むことができた。自分の理想とする夢に向かいひたすら走り回る竜馬に魅力を感じ、その後は竜馬のテレビや映画を多く見たことを覚えている。

岩波現代文庫 / 社会 228

未来の物語

チェルノブイリ の祈り

スベトラーナ・
アレクシエービッチ
松本妙子[訳]

岩波書店

山崎 直子先生

『チェルノブイリ

の祈り』

スベトラーナ

・アレクシエービッチ (著)

岩波書店

チェルノブイリの原発事故をととてもリアルに伝えてくれている本です。被害者が語れずにいた事柄を丁寧に取り上げ、1冊の本に仕上げています。

発電所の火事だとして行った消防士の夫と我が子を失い、自分も放射能に侵されながらも、夫と子を思う妻をはじめ、この本の中に登場する彼ら一人ひとりの言葉は重い。そして今、日本では大震災による原発事故の発生。私達が今おかれている状況と照らし合わせずにはいられない1冊です。

ぼくらの七日間戦争

宗田 理



角川文庫

加藤 真弓先生

『ぼくらの

七日間戦争』

宗田 理（著）

角川書店

夏のある日、中学校1年2組男子生徒22人が行方不明に。親たちが探しても全く手がかりがつかめない。実は、男子生徒達は廃工場に立てこもり、解放区を作って大人に対し、反旗を翻していた。そんな中、1人だけ誘拐されていることが分かった。それにより、誘拐された生徒救出も合わせて行っていくことになる・・・

私が中学生の頃、宗田理さんにはまったきっかけとなった本です。様々なキャラクターが登場し、「クラスにこんなやついる！」と思えるところも楽しいです。ぜひシリーズで読んで欲しいです。

堀 未果
ルポ 貧困大国アメリカ

岩波新書
1112

勝又 進先生

『ルポ

貧困大国アメリカ』

堀 未果 (著)

岩波書店

世界中に広がりをもせた新自由主義の考えは、アメリカの後を追うように日本でも小泉内閣以後国民の暮らしに関わる国の中枢機能のさまざまなものを民営化してきた。その結果、社会保障費が削減され、ワーキングプアと呼ばれる人々や医療保険を持たない者や生活保護さえ受けられない者など民営化の犠牲になった人々の生存権が奪われている現状が見てとれる。そこで、この本を参考に今後の日本の進むべき方向性を是非考えてほしいと思います。

心を整える。

勝利をたくり寄せるための56の習慣

長谷部 誠

笹原 利宏先生

『心を整える』

長谷部 誠（著）

幻 冬 舎

正念場で力を発揮するために。サッカー日本代表、W杯アフリカ大会、アジア杯で主将をつとめドイツ・ヴォルスブルクで活躍その言葉には説得力がある。心を整えることによって安定した力を発揮できる。日常生活での56の習慣から生まれてくる。「遅刻が努力を無駄にする」「愚痴を言わない」「一日の最後に気持ちをしずめる時間を作る」など高校生の生活にも直結する言葉がならんでいる。運動部で活動している生徒は練習（トレーニング）だけでなく日常生活から見直し目標に向かって挑戦して欲しい。

なでしこジャパン監督
佐々木則夫



なでしこ力
さあ、一緒に世界一になろう！
ちから

講談社

鈴木 親光先生

『なでしこ力』

佐々木 則夫（著）

講談社

私がこの本を見つけ、読もうと思ったのはなでしこジャパンが女子サッカーのワールドカップで優勝して世界一になったからです。同じ指導者として何か学べるものはないかと思い本を読みました。この本には、監督の佐々木則夫さんの考えているサッカーの戦術や澤選手をはじめとする個々の選手のスキルの考え方やチーム（組織に）作りについて書いてありました。その中でも、私は監督である佐々木則夫さんの人間力（則夫力）を学びたいと思いました。この本を読んで女性アスリートの育て方を真剣に考えました。

ANTOINE DE SAINT-EXUPÉRY

Le Petit Prince

星の王子さま

サン＝テグジュペリ作
内藤 濯訳



村川 要里紗先生

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ (著)

岩波書店

サハラ砂漠に不時着した飛行士が、純粋な男の子＝王子さまに出会い、交流していく話です。王子さまの星を巡る話は純粋に楽しく、バラの花の話は特別な人を想う気持ちを呼び起こし、キツネや飛行士と心を通わせる場面は、大人になると忘れてしまいがちな大事なことを教えてくれます。読む度に様々な言葉が心に残る、一生モノの名作です。著者自身が描いた挿絵もかわいらしく、様々な外国語版もあるので、比較しながら読む勉強にもお薦めです。